三条ロータリークラブ週報　No. 29　2001. 1. 31　No. 2166

意識を喚起し ——
進んで行動を

私達の使命は…
…私達のクラブ
…地域社会
そしてあまねく広く世界において

2000～2001年度 国際ロータリーのテーマ

第2560地区
ガバナー——吉田昭平
会長——斎藤弘文
会長エレクト——五十嵐昭一
副会長——松谷昊吉
幹事——丸山行彦
副幹事——清水良一
SAA——荻根沢隆雄
副SAA——中村和彦

例会日——毎週水曜日　12：30～
例会場及び事務局——三条市旭町2—5—10
事務局　三条信用金庫本店内
例会場——TEL　35—3311
事務局——TEL　35—3477
FAX　32—7095

本日出席会員数	71名中　59名
先々週出席率	83.82%

ゲスト

パストガバナー　大島精次様

先週のメークアップ

1／29　三条南へ
松谷昊吉さん、清水良一さん、小越憲泰さん、高畑　昭さん、樺山　仁さん、細井増雄さん、五十嵐晋三さん、金子俊郎さん、古沢富雄さん、渡辺勝利さん、捧　賢一さん、渋谷正一さん、斎藤弘文さん、石橋育於さん

1／30　三条北へ
清水良一さん、松谷昊吉さん、菊池　渉さん、樺山　仁さん、五十嵐晋三さん、渋谷正一さん、渡辺喜彦さん、石橋育於さん、斎藤　隆さん、加藤紋次郎さん、五十嵐総一さん

1／30　東京西南へ
林　光輝さん

会長挨拶

斎藤弘文会長

大島パストガバナー、ほんとうにお忙しい中、又高田という遠い所からようこそおいで下さいました。ありがとうございます。

私は昨日会社の新年の挨拶で長野方面に行ってまいりました。高田を通りまして、最後に松本に行って来たわけですけれども大変な雪で私も長く長野に行っていますけれども、あんな雪の多いのは初めて見させていただきました。行く先々が「雪で大変ですね」と言われまして、新潟は特に

大変ですね。ほんとにこんな大変な雪の中で暮らしていることに同情されまして、大変なんだから少し仕事をわけてくれるのかと思ったら、言葉だけ大変だ大変だと言われたわけでございます。

そして何処に行きましても雪を始末する道具が全然なく、ホームセンターに行っても、雑貨屋に行ってもなくて、こまったと言っておりました。三条の金物さんにも聞いてみますと大変な売れゆきで、在庫は０だと言っておりました。

たまたま気象庁の長期予報が暖冬で少雪だったために、メーカーも生産をひかえてしまったといい問屋も仕入をひかえ、その結果よけい不足をきたした訳です。

私はたまたま７月の二回目の例会だったと思いますが、「今年は大変な暑い夏と厳しい冬が来ますよ」と、ですからおそらく三条のロータリークラブの会員の中に金物屋さんがおられましたら、相当な仕入をして大変もうけられたのではないかと思われます。

この次の例会にはその金物屋さんから多額寄付をスマイルＢＯＸに入れてもらわなければと思って来たのですが、残念ながら細井さん、松谷さんも欠席されましたので、この次にしてもらいます。おそらく私の言葉ですので、腹の中で笑っておられたので関係者の皆様もよけい仕入なかったのではないかと思われます。だからいろんな話を仕入れるのも大事ではないかと思います。

実は今日大島パストガバナーから来て頂きまして、私が会長を引き受けた時に、どうしても新しい世紀の変わりめですので、最後の例会には藤田パストガバナーから20世紀のロータリーの総括をしてもらい、21世紀の新しいロータリーのあるべき姿、ロータリーに期待するものを大島パストガバナーから卓話をしてもらうことを密かに決めておったわけです。それが実現できたことを大変うれしく思っております。

幹事報告

◎ガバナー事務所より

ロータリー財団セミナーのご案内がとどいております。

と　き　２月17日(土)　ＰＭ２：00～

ところ　新潟ワシントンホテル

◎頸北ＲＣより

創立20周年仮登録のご案内がとどいております。

と　き　５月13日(日)

ところ　かきざきドーム（柿崎町）

◎環境ＮＰＯ良環より

御協賛講演お礼状がとどいております。

２月のお祝い

◎会員誕生祝

４日　荻根沢隆雄さん
５日　川又嘉瑞範さん
６日　高森章仁さん
10日　藤田説量さん
17日　加藤紋次郎さん
20日　金子俊郎さん
26日　斎藤弘文さん

◎夫人誕生祝

２日　相場満喜子さん（亮嗣）
７日　藤田　智さん（説量）
９日　藤田幸子さん（紘一）
９日　長谷川美智子さん（有美）
26日　佐藤恵子さん（浩一）

◎結婚記念

25日　斎藤弘文さん
27日　渋谷正一さん

◎100％出席賞

７年　五十嵐寿一さん

ニコニコＢＯＸ

高橋　司さん

今年初めての例会出席となりました。
今年もよろしくお願いします。

五十嵐晋三さん

今年初めて出席しました。遅ればせながら、本年もよろしくお願いします。

高森章仁さん

大島パストガバナーを歓迎申し上げます。
弁当を２ヶたべました。

斎藤さん、丸山さん、藤田(説)さん、菊池さん、渡辺(勝)さん、広岡さん、船越さん、杉山さん

大島パストガバナーを歓迎申し上げます。

１月31日分　¥ 15,000
今年度累計　¥730,600

卓　　話

パストガバナー　大島精次様

おめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

今日の週報を見ておりまして、市長さんの談話が載っております。楽しみに帰りに読んでいきたいと思います。

二年程前一緒にニューヨークに旅行させて頂きました。大変市政に対してもうんちくをもっておられましていろんな話しをさせていただきました。

先程私が入って来て藤田説量大先輩から東京のクラブでメークアップをしたのだが昔と違うなあ～と言われまして、私は21世紀とはなんだろう、今デジタル時代ですから１と０の小間切なんです。我々の人生はデジタルはまやかしだと思っております。自分のビジネスがネットワークの仕事をしておりますけれども、元来人間というのはあくまでもつながっていなければならない。今日と明日の間にはすきまがないんです。デジタルというのは、その波を１と０という信号におきかえてその中にいろんな情報を入れようという簡易的にデジタル化という時代なんですね。

20世紀から21世紀はどこで切れるんだろう。そんな事は無いわけですね。我々人生、生まれて死ぬまで何処かで切れるか、それもないわけで、なぜ2001年が21世紀なのだと、私は以前この2000年問題でどうして2000年から21世紀にならないのかと疑問に思った事がありますが、今でもその論議があるんですね。中国ではまだ2001年からなのか国自体が納得していないという話しを聞いております。０の発明はインドです。従って０がはじまりだという東洋思想ですが、西洋思想には０がはじまりだという考えはなくすべて１がはじまりであるという考え方です。従って違った考え方があるので21世紀が2001年であるということはない。イスラムはイスラムの暦を使っておりますし、中国は中国暦を使っております。簡易的にグローバルティーにもの事を考えますと西暦二千何年でないと通用しないのです。便宜的にそれは認めざるをえない。私はとくに奇異に感ずるのは自分が日本に居るとあたりまえの様にここに来るとご挨拶で頭を下げます。ところが皆さんテレビで森首相を観ますと外国に入って各国の大統領と会議の時の異様な雰囲気は感じませんか、とにかくあたりかまわずペコペコ頭を下げているのは日本人です。非常に異和感をかんじます。それがもっとグローバリティーになって地球が一つになったらどっちになるんだろうと疑問をもった事があります。そういう意味において21世紀のロータリーはどうなんだろう。私は今こそ現風景といいますか、原点をみる必要があるのではないか、藤田先輩が東京クラブに行って「昔は良かったなー」と言われ、なぜ良かったのかをもう一度その良さを我々がどうしてかという疑問をもっていいのではないかと思います。

藤田先生からお話しがあったかと思いますが、重複のところはご容赦願います。

まず１月はどういう月か、ロータリーを理解してもらおうという月です。その中で特に１月27日ポールハリスはなくなっております。シカゴという所は大変寒いですね。ミシガン湖からの風が吹いて来ます。その風が大変寒いです。日本の－７°～－10°が普通です。体感温度は－20°位なんです。そういう寒さの中でポールハリスはロータリーをやめてからロータリーの普及活動をやりました。

そして後半はカーモリーバンクという町の名前をとって（奥さんがスコットランドの生まれです）自分の家の名前を付けかなり大きな家を作って、いろんな国からのロータリアンにぜひ来て下さい、そして世界はひとつなんだという話し合いをしようじゃないかという事でカーモリーバンクで余生を送られました。身体の弱かった彼は１月27日極端に寒い日に78才の人生を閉じたわけです。

私にとってポールハリスは身近な哲学者だと思うのです。哲学とは真理を追求する。真理というのは、去年から今年、20世紀から21世紀とかわるものではない。真理はひとつである、それを追求するロータリーが年に会長が変わるけれども真理はひとつ。そこに到達するいろいろな方法が変わるということです。そういう意味でロータリーのやり方が変わってくると思います。例えば例会のお話しをしたいと思います。

現在例会の時間は12時半から１時半ですね。日本の90％がそうです。それでは世界のロータリーはどうなのか、朝の６時半から10時までの朝の例会が８％あります。それから昼間の例会が12時を中心とするランチタイムの例会が40％です。それでは後の52％はなにかというと夜なんです。こういうように世界のロータリーのやりかた、運営のしかたというものはいろいろあります。これはいろんな面で変化するでしょう。そういうことを我々は知らなければならないのです。それから丁度三年前になりますか、初めてシカゴワンクラブというポールハリスがつくった世界ナンバーワン、一番のクラブにビジターとして訪問しました。ここに行きますとメークアップする我々、特に国籍の違った人には非常に歓迎していろんな人が集まってこられ、食事になりますとテーブルを囲んで40分位、話しをしたり、食事をしたりします。例会時間は１時間半です。このようにいろんなかたちがあり、三条には三条のやり方があっていいと思います。

もう一つロータリーについて見直す必要があるのではないかと思います。ただ移動例会はきわめて少ないそうです。きちっとした例会をするその他にあちこち行ってみようということはあっても移動の例会は決まった日にきちっとやるという基本にあるようです。

最近日本のロータリーで変わっているのは、いろんな所をみる、だから移動例会でそこで食事をするということがあまりに多すぎます。もうすこし基本に忠実にきちっとやってみたらどうでしょう。ロータリーの例会というのは楽しくなければいけない。そして学びの場でなければいけない。そしてなによりもそこで食事する憩いの場でなければいけないとポールハリスは言っています。

例えばドイツ人はビールを飲んで心の癒しを取る。イギリス人は午後紅茶を飲んで心の癒しをする。スペイン人は昼寝をする。このようにロータリーの集まりは心の安らぎの場でなければいけないと言っています。今月号のロータリーの友をお読みになった方がいらっしゃると思いますが、私は電車の中、あるいは車の中でおもしろい記事だけを読みます。17ページのポールハリスの合理的ロータリーアニズムという記事があります。これは私が1994～5年のガバナーをする以前から何回も何回もロータリーの友に掲載されています。ぜひお読みいただきたい。

この中に「私がどこかのコロシアムの舞台に立たされて、皆さんと向かい合い、瞬時のためらいも許されず、あらんかぎりの声で何か一言、言えと告げられたら“寛容”と大声で叫ぶでありましょう」ここからはじまっています。

“寛容”とは非常にやさしい、けれどもなかなか実行できない。ロータリーの哲学とはそうだと思います。四つのテスト「真実かどうか」「皆に公平か」「好意と友情を深めるか」「皆の為になるか」これがあるから私はロータリーに入らないという人がいるのです。私はロータリアンになっても実行できません、とても私の入る所ではありません。これを理由にしてやめた方もおいでになります。人間というのは目標に向って努力はするけれども実行するのはむずかしい。出来なくてもしかたがない。これを実行できたならば聖人君主です。ロータリーには四つのテストが光り輝いていてよいと思います。それに向って努力するそれがロータリーであると思います。ポールハリスはけっして人の悪口を言わなかった。それが寛容であり人を批判するまえに己はどうだろうあの人はどうだろう。良い面丈をみている。それはポールハリスのいろんな語録の中に出ています。

今月号の17ページに４人の考え方の違う人々の記事がのっていますので読んで皆さんでなにかをみつけ、これからのロータリーとはこういう考えでどうなんだろうと話し合って下さい。

1911年のポールハリスの著書が今だに何回も読みかえされているしロータリーの友にも掲載されているということは一つの真理があるからです。私が大好きなロータリアンエイジという本の中にいろいろおもしろい事が書いてあります。その前にロータリーを遡っていきますと、アメリカという国の存在が大変クローズアップされます。

1905年の大火から約35年たっていますがまだまだ混濁の時代でありました。その時代にポールハリスが弁護士事務所を開きました。この世の中これでよいのだろうか、これで社会がうまくいくのだろうか、いやそうではない、自分の将来もうまくいかなければならないしこの地域も良くしなければならない。というのがそもそものロータリーの原点である。ロータリーという名前は後についた名前で始めはブースターという（あと押しするという意味）名前でした。４人でもちまわりで例会をやっていたのでロータリーという名前になりました。ポールハリスは社会奉仕をしなければならない。ハリーラッグスという会員は親睦だけで良いのだという考えでありました。これがものすごくお互いの議論になりました。

人間というのは流れやすい方に流れる、親睦だけで中心じゃないかという考え方に片寄ってしまう。そういう状態が続きまして二年間の会長をやって二年目に彼は論争の末会長をやめてしまいました。それから彼の考え、哲学というものができあがるまでに非常に長い間悩むのであります。そして1935年ロータリーから引退しました。そしてロータリーの普及活動でいろんな国をまわりました。1935年私が生まれた年で良くおぼえているのですが帝国ホテルに宿泊して、その時にジスロータリーエイジを書いたのです。1935年、第一次大戦から第二次大戦に向ってどんどん足音が大きくなった時代であります。その時ポールハリスが本の中に

「およそ戦争なるものは理性を知らない。戦争は勝敗のいずれの場合もあい償わない。最善の戦争も人類の知る最悪の事件である。人間の感情を抑制せざる結果が戦争である」

「破壊手段を発明する化学者、軍費を供給する財産家、感情を激越して理性の蜂起をさそう、新聞雑誌製作者」

これをけしからんと言っています。それから「一国民について多くを知れば知るほどかれらをあしざまに解釈する危険は少くなる」まさに今の国際親善、お互いに親善の学生をやったり、とったりしている事が相手の国が知れば知る程相手と友人になればなるほど人を痛めない、その人を思いやる、やる事を寛容の精神で許しあうこういう機会にめぐまれるという事を言っています。それから「もし鉄工業者が結託すれば戦争先導家に対して戦争の道を平坦な円滑なものとする事が可能である」とロータリーアンのジャッジゲーリーが言った言葉が誠であるとすると、世界の実業家職業人が相提携する事によって有効な支配力をはっきする事が出来る、もし80の国において発刊されるロータリーの機関誌の中にロータリーの理想に対する信念を完全に発揮できれば将来の戦争、戦闘家は少なくとも一つのおそるべき対立勢力と抗争しなければならない、戦争を平和論者でない戦争を好む人に対してロータリーがいかに皆が一つのものにあわせれば抑止する事ができるのだ、今のこの時代の人が言った言葉であれば私は納得できます。今から65年前の富国強兵の時代いかにアメリカといえこういう事をピシャリと自分の言葉で言った、しかも本まで出版した。こういう人物を我々の創始者にもっているわけです。21世紀のロータリーをもう一度ポールハリスの原点にもどってロータリーの運動を元にもどす。そして新しいロータリーの時代がくる。私はよく例にとります。壁に向ってボールを投げて下さい。一生懸命投げたボールはかならず自分の手元に戻ってきます。いいかげんにロータリーに入って飯を喰って帰ればよいという、いいかげんな力で投げたボールは手元に戻らない。一生懸命投げてみて下さい。かならず皆さんの心に残るものがあります。それが世界の平和、地元の繁栄、自分の職業とかいろんものにはねかえってきます。それを信じてこれからも頑張ります。21世紀ますます三条ロータリーが発展される事を期待申し上げて終りにしたいと思います。ご清聴ありがとうございます。

●例会案内

三条ＲＣ	２月14日例会	夫人同伴新年会　於 ティファニー
	２月21日例会	クラブ・フォーラム

メークアップをどうぞ

三条南ＲＣ	２月12日例会	(祝)休会
	２月19日例会	卓話　ガバナー　吉田昭平様
三条北ＲＣ	２月13日例会	会員卓話
	２月20日例会	夜例会　於 三条ロイヤルホテル
加茂ＲＣ	２月15日例会	クラブ・フォーラム
	２月22日例会	移動例会　於 「ホテル大橋」
燕ＲＣ	２月15日例会	会員卓話
	２月22日例会	夜例会
見附ＲＣ	２月15日例会	クラブ・フォラム
	２月22日例会	会員卓話